

# 『結』の生きる 幸せ村・住みたい村を目指して

山間部グループは、人口減少が喫緊の課題であり、人手不足、仕事がない、空き家が増える等の諸問題が発生している。そこで、諸問題を解決することで、人口減少対策となり得る提案を行います。『空き家情報集約&管理づくりプロジェクト』による空き家対策。『小さな仕事情報の管理プロジェクト』による新たな仕事や埋もれていた仕事の見える化を行い、仕事の創出を行う。それらのプロジェクトを円滑に運営実行するために、組織の立ち上げを行う。

## 10年後の理想像

### 交通インフラ

- 車だけに頼らず公共交通でも暮らせる
- 通勤しやすい路線バス
- 車が無くても買物に行ける

### 自然

- 田、畑がうるおっている
- 自然、山が残っている
- 牛馬の復活

### 経済

- 働き口がある
- 衣食住の自給自足ができる
- 山の斜面を有効活用
- 山間部も平野部も経済負担率が対等

### 結

- 老いを敬い、若さを尊重する社会
- 近所同士で助け合える関係、年代問わず話合える
- 怖い住民がいない
- 豊かさを実感、愛する郷土
- 祭りや獅子舞が残っている
- 孤独な老人のいない村
- 一旦出ても帰ってきやすい村
- ずっとここで住みたいと住民の8割が思っている
- 緊急時に連絡を取れる

### 安心・安全

- 空き家が少ない、空き家が管理されている
- 安全だけど自然と近い(融和した環境)
- クマと出あわない
- 消防署がある
- 土日でも空いているATM
- 草刈、雪かきなどの自動運転
- 積雪対策
- 委託しやすい環境づくり

### 子育て

- 子どもがたくさんいる
- 子どもの遊び場がある(監視しなくても安全で楽しい)
- 遊ぶ所がたくさんある
- 20~40代がたくさんいる
- 独身男女がいない
- 小中高校がある

### 観光

- 観光を事業に
- 観光やビジネスで人が多く来る
- 人口減っても交流人口がある。

### 楽しみ

- 若者が楽しめる
- 独居高齢者でも住みやすい
- 住人が多様で、多様であることが自然である。
- 行事を減らし20代の若者が住みやすい環境づくり

## 課題と組織・全員参加の仕組みについて

### 地域の課題

空き家問題/働く場所がない/人手不足/急激な人口減少

### 必要な取り組み

まずは部会の成功例をつくる必要があり、多機能にこだわらず、最初は単機能が望ましい/人も少ないため、まずは単機能として、『空き家』と『仕事』に特化した実行部隊を設立。

### 組織の在り方

#### 【方向性】

- 部会は、自分の生活や興味を元にした参加方式
- 若い人や女性の意見を吸い上げる
- 事務局は、多くの住民の声を吸い上げ分析する
- 確実に動ける実行部隊の創設

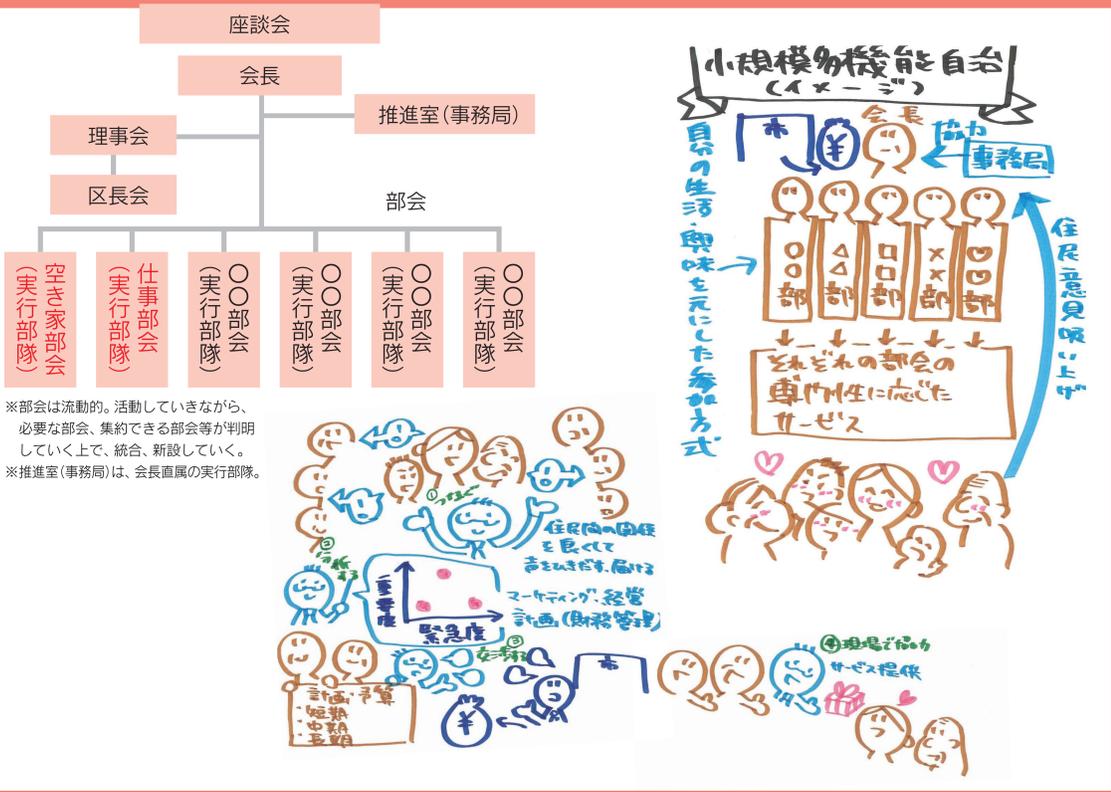
### 全員参加の仕組み

- アンケート方式による住民意見の収集
- 部会へ、自分の生活や興味を元にした自由な参加方式

### 若者・女性の参画推進の工夫

- 地域新聞の発行  
※様々な情報の発信(広報誌的なもの)  
※地域新聞にてアンケート方式で本音コーナーをつくり、意見の吸い上げと情報共有を図る
- 部会への参加方式  
※自分の生活・興味を元にした自由な参加方式

## 組織



※部会は流動的。活動していきながら、必要な部会、集約できる部会等が判明していく上で、統合、新設していく。  
※推進室(事務局)は、会長直属の実行部隊。

## 事業

- ◆ 『空き家情報集約&管理づくりプロジェクト』 ※空き家情報の把握、日頃から家主や地域の意向調査や空き家提供への説得、利用希望者と地域をコーディネートする事業
- ◆ 『小さな仕事情報の管理プロジェクト』 ※通年ではない地域内の仕事の情報を集めマネジメントする事業



## ポイント

組織を作る前に、まずは課題解決の実行部隊を作る。部会が多機能よりもまずは単機能で成功例！！/実行部隊はボランティアではなく有償でビジネスとして実施。地域集金も検討。/人口が少なく、行事も多く、多くの組織を作るには無理がある。/住民(若者や女性)の意見を吸い上げられる組織/固定化した組織ではなく、変化していける組織であるべき。/組織の変化のためには、組織を検証していく組織も必要。/老若男女が直接話し合える場が必要。/行政に頼らず、自分たちで治める。/事業によっては山間部同士で共同実施(10年後の更なる人口減を想定し、今から連携)。